

平成 30 年度 学校教育自己診断結果

● 実施時期 平成 30 年 11 月

● 回 答 生 徒 : 107 名 (7 名増) 保護者 : 21 名 (6 名減) 教職員 : 24 名 (増減なし)

1. 生徒の自己診断結果

○肯定率の高い項目	肯定的意見(回答3・4の合計)(%)	H30	H29
25	学校は、定通修学奨励費制度、教科書給付・夜食給食援助制度、奨学金制度などの情報をよく知らせてくれる。	86.0%	80.2%
7	教え方にさまざまな工夫をしている先生がいる。	84.1%	80.0%
3	学校は生徒の意見をよく聞いてくれる。	82.2%	83.2%
2	この学校には他の学校にない特色がある。	82.2%	81.3%
8	生徒の興味・関心、適正・進路に応じて選べる選択科目がある。	81.3%	75.3%
16	学校はみんなが楽しく行えるよう学校行事を工夫している。	79.4%	75.8%
19	学校生活の中であいさつができています。	79.4%	73.7%

- ・「奨学金制度などの情報をよく知らせてくれる」「意見をよく聞いてくれる」「学校生活でのあいさつ」など、教員と生徒とのコミュニケーションに関する項目の評価が高かった。
- ・授業や学校行事に関しては、「教え方の工夫」「学校行事の工夫」などが昨年度より約4%増となった。授業や行事をよりよいものにしようとする取組みを、生徒が肯定的に捉えている様子が見える。
- ・「他の学校にはない特色がある」「選択科目」の項目から、生徒がⅢ部の学校の特色を理解している様子が見える。

○肯定率の低い項目		H30	H29
18	部活に入っている人だけ解答 → あなたは部活動に楽しく取り組んでいる。	48.6%	66.7%
5	授業では、実験・観察・実習などの時間がある。	50.5%	58.3%
28	授業や部活動での活動を通して、地域の人々と関わる機会がある。	50.5%	56.8%
6	授業で自分の考えをまとめたり、発表することがある。	59.8%	57.7%
10	環境、国際理解、福祉ボランティアなどの新しい課題について学習する機会がある。	59.8%	47.3%
9	授業やホームルームなどで、学校以外の先生方から話を聞く機会がある。	62.6%	61.5%
17	あなたは学校行事（体育祭や文化祭など）に楽しく取り組んでいる。	64.5%	69.4%

- ・授業に関する項目では、昨年度よりも肯定率が増加したものもあるが、6割程度にとどまっている。授業改善による取組みなどの成果が少しずつ現れているものと捉え、引き続き「生徒が分かる・できる授業」をめざす取組みを学校全体で進めたい。
- ・部活動や学校行事への参加については、改善の取組みに対する評価に比べると、低い値となった。夜間定時制ということで活動時間などさまざまな制約があるが、生徒が主体的に参加できるよう工夫を重ねていきたい。

2. 生徒、保護者、教職員の診断結果の比較

○得点の高い項目

「学校に対する項目」

生徒：学校は、定通就学奨励費、教科書給付・夜食給食援助制度・奨学金制度などの情報をよく知らせてくれる。	《83.2%》
保護者：学校は、進路に関して、家庭への連絡や意思疎通を、きめ細かく行っている。	《85.0%》
教職員：学校行事が生徒にとって魅力あるものとするために、工夫・改善を行っている。	《100%》

「教育活動に対する項目」

生徒：教え方にさまざまな工夫をしている先生がいる。	《84.1%》
保護者：学校は、子どもに命を大切にす心や社会ルールを守る態度を育てようとしている。	《94.7%》
教職員：生徒のレベルに応じた分かりやすい授業をつくる努力をしている。	《100%》

「学校に対する項目」では、生徒や保護者への情報提供とやり取りを示す項目が高い値を示した。日ごろから教員が生徒や保護者との連絡を密に行っていることが評価されたものと捉えられる。「教育活動に対する項目」では、授業の工夫や取組みに関して生徒と教職員の値が高かった。保護者については、上記の値に加えて、就職や生徒指導の方針についても高い肯定率(85%)を示しており、本校での教育内容を肯定的に捉えている様子がうかがえる。保護者との連携を取りながら、引き続き進めていきたい。

○得点の低い項目

「学校に対する項目」

生徒：授業や部活動での活動を通して、地域の人々と関わる機会がある。	《50.5%》
保護者：この学校の授業参観や学校行事に参加したことがある。	《40.0%》
教職員：地域の人々と接する機会を持っている。	《41.7%》

「教育活動に対する項目」

生徒：授業では、実験・観察・実習などの時間がある。	《50.5%》
保護者：子どもは、授業がわかりやすく楽しいと言っている。	《63.2%》
教職員：思考力を重視した問題解決的な学習指導を行っている。	《62.5%》

「学校に対する項目」では、「地域の人々との関わり」「行事への参加」の肯定率が低い結果となった。これについては昨年度と同様の傾向である。活動時間などに制約があるものの、引き続き生徒が社会参画できるよう地域と連携した取り組みを検討していきたい。

「教育活動に対する項目」では、授業改善の内容に関する項目が低い値を示している。授業作りの推進や教え方の工夫については、生徒や教職員ともに高い肯定率を示している一方で、「思考力を重視した授業作り」が新たな課題として浮かび上がっていると捉えられる。この課題を学校全体で共有し、生徒にとって「分かりやすい・できる授業」作りをさらに進めていきたい。